

2017年度 委員会事業報告書

担当副理事長兼55周年実行委員長 服部高志
光輝く海部津島創造委員会 委員長 藤田哲朗

1. 委員会開催日 (14回)

1/10	1/18	2/17	3/1	3/29	4/18	5/23
6/14	7/7	8/10	9/21	10/21	11/17	12/18

2. 事業報告

- | | |
|------------------------|-------------|
| ① 例会の担当 | 4月22日 |
| ② 55周年事業・JCデー(8月例会)の担当 | 8月26日 |
| ③ 日本JC全国大会の担当【埼玉】 | 9月28日～10月1日 |
| ④ 防災に関する担当 | 通年 |
| ⑤ 新入会員の拡大 | 通年 |
| ⑥ 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

藤田哲朗 鳥居厚志 吉岡和也 井田雄也 山崎 章

出向メンバー

横井高志

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、笑顔で日常を過ごすことができる個性光るまちの実現を目指し、市民のまちを愛する気持ちを高め、市民と共にまちづくり活動を進め、市民の活力を増大させることで、当青年会議所の存在価値を強く地域に示すと共に、前向きな気持ちでまちづくりに参画する市民を増やしていくことを目的に活動をしてまいりました。

そこでまず、まちに存在する地域資源の情報収集を行い、その魅力を効果的に伝達する手段として体験型観光に目を向けました。地域資源の魅力を体感できる素材を集約し、また、市民と共に新たな体験メニューを創り出すことで、体験のまちとして地域の内外に誇ることができる前途洋々な可能性を市民に示し、まちづくりに対する市民の大きな活力を生み出すことができるのではないかと考えたためです。しかし、手法にとらわれ過ぎてしまったことで、目的意識が薄れてしまったことが大きな反省点であります。

最初の例会に向けて、体験観光パンフレットに素材を提供してくれる協力者、一緒に新たなメニューを企画してくれる協力者を募り、4月例会では新たな体験として子どもだけでなく大人も含めた家族で楽しめるどんこ体験を企画して、協力者の方々と地元の高校生にご参加いただきました。地域資源のもつ魅力を伝えることはできましたが、協働してまちづくりに取り組む自覚と責任感を共有するには至りませんでした。早い段階で地域資源についての情報収集を終え、新たな体験を創り出す過程を協力者の方々と共有することができれば、委員会と同じ考えをもった同志を増やすことができ、より広範囲に地域を巻き込むことができたと考えます。

4月例会から55周年記念事業・JCデー(8月例会)にかけては、どのように海部津島の魅力を増幅させる新たな価値を創り出すべきなのかを思い悩み、手法の点ばかりを試行錯誤し、結論が出ないままに時間

だけが過ぎていきました。委員会の基本方針では、海部津島の魅力を増幅させる新たな価値を創り出すという部分はあくまでも手法であり、ひとを引き寄せる特大の元気を創出することこそが目的でありました。一年間の運動を展開していくにあたり、理事長所信、実行委員長所信はもちろんのこと、委員会基本方針も反復して確認し、背景と目的、手法を整理することが重要であると強く実感しました。

J Cデーでは、講師に東国原英夫氏を招いての講演会と主権者教育実践委員会の事業や例会で当青年会議所と既に運動を共にしていた地元の高校生によるパネルディスカッションで、市民の方のまちづくり参画意識を高めていただくことができました。しかしながら、将来へと続くまちづくりに向けての意識変革を促すためには、参加意識の高まりを継続させることが必要です。その後の展望を明確に市民に示し、その未来に向かって市民と共に行動していくところまでを準備することができれば、前向きな気持ちでまちづくりに参画する市民を増やしていくことができたと考えます。

地域にとっての財産は人であり、どのようなまちをつくるかよりも、どのような人が増えれば幸せなまちになるかを考えて運動を展開するべきであったと考えます。海部津島青年会議所が運動発信を重ね、想いをもった人で溢れる地域は、7行政区それぞれの個性を活かし合った、笑顔で日常を過ごせるまちへとつながっていくと信じています。

以上を反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

5. 委員長所見

反省点の中でも触れましたが、地域の課題解決策を市民に提示して、理解を得て、大きな運動を起こそうという考えは、おこがましいものでありました。地域を巻き込む、市民を巻き込む、周囲を巻き込むと青年会議所ではよく言われますが、地域のことを市民と共に学び、課題を共有し、想いと行動を同じくする過程を経ることが、地域に必要とされる人財へとメンバーも市民も成長させる機会であり、その機会を地域に与え続けることが、熱い想いと行動力をもった市民を増やし、まちの発展を引っ張っていくリーダーをつくることであると考えます。

委員長という役職は、自分にとって、とても特別なものでありました。その責務は膨大で、得るものも失うものも多い一年間でした。時には投げ出すことも考えましたが、多くの人の支えがあったからこそ、なんとか最後まで踏みとどまることができたと思います。

日本J C全国大会に関しては、これまで私自身が対外事業へほとんど参加していないこともあり、スムーズな設営を行うことができませんでした。対外事業は、通常よりも多くの時間と費用がかかるため、個別の役割がない場合は敬遠しがちであると思います。設営側として、対外事業の目的を理解してメンバーへ分かりやすく伝えることで参加を促し、当日は参加して良かったと思ってもらえるように心がけるべきだと感じました。

独りよがりの委員長で、委員会メンバー、担当副理事長はもとより、理事長はじめメンバーの皆様には大変なご迷惑をお掛けし、成長の機会も満足に提供できなかったことを深くお詫び申し上げます。

最後に、当然のことではありますが、委員長として関わらせていただいた多くの方への感謝の気持ちは数え切れません。各例会にご参加、ご協力いただきました市民の皆様、高校の先生方、生徒の皆様、ご協賛いただきました諸先輩方と一般の企業様、本当にありがとうございました。

そして、中野治也理事長、服部高志担当副理事長、委員会メンバー、海部津島青年会議所のメンバーと関係者様へ、一年を共に過ごすことができたこの機会に、改めて心からの感謝を申し上げます。

6. 収 支 決 算

収入の部		支出の部	
予 算	決 算	予 算	決 算

事業費	0	事業費	0		0		0
合計	0	合計	0	合計	0	合計	0